

令和7年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
41	川崎市立東住吉小学校	伊藤 和江

学校教育目標	今年度の重点目標
<p>【すこやかな児童の育成】</p> <p>す…すなおな子 (自分の良さに気づき自己肯定感を育む)</p> <p>こ…こころやさしい子 (認め合い励まし合い高め合う)</p> <p>や…やる気のある子 (主体的に粘り強く取り組む)</p> <p>か…考える子 (自ら課題を見つけ考える子)</p>	<p>①一人一人を大切に、多様性を受け止める支援教育の充実～誰ひとり取り残さない支援を～</p> <p>②授業内容や指導の工夫を検討し、授業改善に取り組み</p> <p>③なるほど！もっと知りたい！やってみよう！～東住3Chance challenge change UDLの授業研究</p> <p>④特別活動を大切に学年・学級経営の充実</p> <p>⑤人間としての在り方生き方の軸をつくる</p>

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1	インクルーシブ教育の推進、支援体制の充実 <ul style="list-style-type: none"> 児童支援3次の支援システムの充実 学びのユニバーサルデザインの推進 多様な学びの保障、主体的な学び 教育環境整備 	<ul style="list-style-type: none"> コーディネーターを中心として支援体制の構築を図った。保護者、児童にとっても相談しやすい雰囲気を整えていった。 様々な学び方を提示し、自分にあった学び方を選び進んで学んで行くことができるように努めていくことで、児童が喜んで学べる雰囲気へとつながっていった。 校内の環境整備に努めた。用務員の協力を得ながら構造化(時間、場所、活動)を進めていくことで、誰にとっても行動に移しやすいようになっていった。 	<ul style="list-style-type: none"> コーディネーターを中心に相談しやすい環境を引き続き整備していく。 校内の構造化を引き続き図っていく。 事後対応にならないように日頃から子どもたちの様子に目を傾け、職員での共通理解を図り、支援方法を検討していく。全職員の共通理解に努めていく。 来年度は特別教室に校舎再生整備工事が入るので、学びやすい環境づくりに努めていく。
2	いじめ防止基本方針の共通理解、機能の推進 <ul style="list-style-type: none"> SOSを見逃さない未然防止対策 共生*共育プログラム、効果測定の実施と見取り 連携*相談・協力の体制づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 朝会などで幾度となく心優しい子の意味を話し、お互いに認め合い、多様性を受け止められるように他者理解の場を設けてきた。 効果測定の実施を行い、これが学級経営に生かせるように図った。 コーディネーターを中心とした連携の体制づくりを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々なアンケート結果を活用できるように教員が主体となって分析し、学級経営に生かせるようにする。 効果測定を効果的に使えるように研修を行い、児童理解に努めていく。 いじめ防止対策研修を行い、教職員の意識を高めていく。 学年、学級、校内での報告連絡相談が気軽にできるようにしていく。
3	授業改善 <ul style="list-style-type: none"> 個別最適・協働的な学び、価値ある授業づくり 研修、研究の充実 指導と評価の一致と評価の充実 通級指導教室との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 教員同士が授業を見合い、よりよい授業を検討していった。 専門的な知識をもっている通級指導教室の教員からもアドバイスをもらい、児童対応、授業改善につなげていくことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 経験者研修を始め、お互いに授業を見合う機会を増やし、価値ある授業づくりを行っていく。 通級指導教室担当教員から、引き続き支援方法、授業改善の助言をもらい実践へとつなげていく。
4	校内研究 <ul style="list-style-type: none"> universal design for learning(UDL)の授業研究と研修 すべての児童がわかる楽しい授業づくりの実施 	<ul style="list-style-type: none"> UDLの視点にたった授業づくりを行っていくことで、児童がどこで戸惑うか予想し、そこでどのような支援をしていったらよいか検討していき、取り入れた授業を進めた。児童が自分にあった学び方を学び、学習を進めていくことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科を中心とした基本的な学習指導をUDLの考えを取り入れながら進めていく。 授業のねらいに対し、学習の進め方が適切だったか、子どもたちに力がついたかを検証しながら研究を進めていく。
5	特別活動 <ul style="list-style-type: none"> 学級活動や児童会活動の目的や内容の明確化 話し合い活動の充実 たてわり活動など一人一人が活躍できる場の設定 児童の興味や関心が広がる経験や体験活動 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が主体的になって活動できる場と時間の設定を行った。話し合いの時間を十分に設け、自治の力が育つように図った。各自が目的をもった活動をしていくことができた。 全学年が関わるたてわりグループで計画的に活動を行った。 地域など様々な講師の方に来ていただき、児童の興味関心が広がるような体験活動を多く取り入れていった。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別活動の基本的な考え方を学びなおし、児童が主体的になって活動できる学習を計画立てていく。 たてわりグループ活動を引き続き行い、地域の方々の学習協力が得られるように今までの学習を協力を整理し、学習のねらいに沿った内容で継続できるようにしていく。
6	学年・学級経営在り方・生き方 <ul style="list-style-type: none"> 自己有用感や規範意識、人との関わる力の育成 社会的自立に向けて必要な態度、共生、協働の精神の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 6年生はキャリア在り方教育を率先して行い、学習内容を発表していくことで、下学年の学びのモデルとなっていった。各自が問題意識をもって探求していく学びとなった。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の良さに気づき、誰もが大切な存在であることを理解し、人とかかわることができるように指導していく。 6年間、系統立てた探求的な学びを、計画的に学習を進められるように柱建てを行う。
7	地域、保護者との連携 <ul style="list-style-type: none"> 学校だより、ホームページ、ミマモルメでの情報発信 学校行事や授業の公開 	<ul style="list-style-type: none"> 学校だよりを見やすく、予定がわかりやすいように様式の変更を行い、ホームページに発行日に掲載をした。ホームページに学校生活の様子を載せた。ミマモルメを活用し、随時情報発信を行った。 民生委員や町内会など地域の方との連携も行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 予定の変更が極力生じないように見直しをもった情報発信を行っていく。 ホームページは引き続き更新し、学校生活の様子を知らせ、わかりやすい体裁を検討していく。 地域との連携は積極的に行っていく。
8	学校評価等を生かした学校改善 <ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートの活用 学校運営協議会、保護者懇談会、学校説明会、学校報告会等 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートを行い、保護者から頂いたご意見ですぐに改善できることは改善した。 学校運営協議会を2回開催し、意見を頂いた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営方針に基づいての学校評価アンケートを作成し、それに基づいた分析を具体的にやっていく。 今後も学校運営協議会を2回行い、学校を知ってもらい意見をいただく機会を増やしていく。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<ul style="list-style-type: none"> 困ったことがあったとき、担任やコーディネーター、養護の先生が親身に支えてくれ、ありがたいです。 日頃から先生方が子どもたちのために尽くしてくださっていることがよくわかります。学校の一所懸命な取り組みがもたらす保護者に伝わるといいのにと感じます。 学校だよりやホームページ、すこやか通信など保護者や地域の人にとってわかりやすいものになり、保護者の味方で進めてくれよかったです。 いじめ防止やSNSの使い、GIGA端末の扱い方について継続した指導を取り入れてほしい。 宿題を課してほしい。学習習慣を家で身につけさせたいのでお願いしたいです。 昨年度宿題がなくなったことで、先生方の余裕ができ、休み時間子どもたちと遊べるようになってよかったです。宿題に関して保護者が懸念していたことを整理して答えてくださりありがとうございました。 学校に協力できることは積極的に関わっていきたくです。学校は思い出をつくる場所、思いが集まる場所。地域のシンボル。そういう思いが広がってほしい。 UDLの研究が素晴らしいです。学校の端々に多様性について考えていることがわかります。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育目標に基づき、働きやすい環境を整え、より信頼される学校づくりが必要となっている。この1年間、学校運営の見直し、業務改善を行いながら学校運営を進めてきた。教職員の話し合いを十分に取リながら、共通理解のもと進めていくことの重要性を感じる。 保護者の学校評価アンケートでは、肯定的な回答が多かった。保護者の意見から改善できるところは見直しを行い、できることはすぐに対応、回答していった。今後も保護者や地域の方の意見を参考にしながら、学校教育目標「すこやか」の子の育成に努めていきたい。 登校渋り、不登校の児童がいる。誰にとっても居心地が良い場所を作り、学校が安心できる場となるように環境を整えていきたい。今年度の重点目標であった「誰一人取り残さない支援」を引き続き、具体的に検討しながら支援体制を整えていきたい。 今年度の校内研究 universal design for learning(UDL)の成果を生かし、今後もすべての児童がわかる楽しい授業づくりの研究を引き続き行っていく。授業改善を図りながらより主体的な学びになるように研究を深めていきたい。 宿題のあり方については、再度、保護者の方に課題としてではなく、家庭学習の進め方を年度当初に提案して必要性がある中で、保護者会等で説明し、随時相談にのれる体制を作っていく。 地域、保護者の協力が学校運営の大きな力となっている。引き続き連携を取りながら進めていきたい。